

特56

761

東京圖書

四冊	一五 四号	四架	四函	屬	類
----	----------	----	----	---	---

一大
奇書
林之庫

二



之庫初帙卷下

東京

田島象二戲述

光陰者過客旅費

日月者道中亭舍

再說李泰伯卷嘴於桃李園曰夫天地者萬物之

逆旅光陰者百代之過客而浮生若夢為惟幾何

ト語ヤ心下了了然レモ半仔語解シテ世ヲ夢

トシ、悟道正覺ヲ以テ何テモマ、ノ革ノ犢鼻

揮ト今日ノ糊口ニ畢テ明日ノ生意事ニ意ナ

キ時ハ必スシモ卑陋ノ事ヲ作ニ至ル夫レ百
 代ノ過客中ハ經紀ノ外ニ用ナキノミ唯ダ其
 權ヲ為スハ非常ノ光陰ヲ生捕テ以テ之ヲ權
 樂ノ旅費ニ充ルヨリシテ外何ゾ晦日晦日ノ
 休憩亭ヲ樂神ニ過テ安心ノ息枝ヲ突ク事ヲ
 得ンヤ然ルヲ半仔光陰ヲ徒ニ驅逐擊走シテ
 身ハ終身足ノ裏ニ觸鞋瘡ヲ醸スヲ知ラズ遇
 朱文公勸學ノ詩ヲ誦スルモ狂詩トシテ之ヲ
 唱フ

娼妓易買拂難成 十錢楮幣不可輕

未覺放蕩無頼夢 已聽晦日掛取声

甚タシヒ哉身ノ愚ヲ歌フヲ大禹聖人乃惜寸
 陰至於衆人當惜分陰ナリ九ノ光陰ハ空氣ト
 品價ヲ同ジフシテ金テ買レズ人ニ分テズ事
 業ヲ建ル財本ニテ假令ハ今日費ヤス處ノ金
 銀ハ巨萬ト雖モ明日ヨリノ勉強ニ依リテ得
 ベシト雖モ今日唯今失ナフ處ノ光陰ハ決シ
 テ得バカラザル也然ル得難ノ光陰ヲ一尺ハ

善ヒ、二尺ハ善ヒ、五尺六尺ト、ウチ廣ケ、上等連
 ハ春ナレハ、墨陀河畔ノ花ヲ尋ネ、黒漆無号ノ
 人カ車ニ推妻、或ハ藝妓ト相乘、鼻惹ノカシ、是
 レ見ロカシニ、遊燕シ、秋ハ花街ノ七草ヤ袖浦
 ノ月ニ涎ヲ垂レ、昨夜モ附會今夜モ陪從、傳信
 機ノ長タト引出ス、金貨ニ奔走シ、時得ン顔ニ
 光陰ヲ藝妓ノ気体ホト尊トカラズ、又下等ノ
 蘭田居士ガ如キニ至テハ、三十日ノ鬼ノ恐口
 シサニ之ヲ避ント、霧ヲ蒙リテ曉ノ鴉ト俱ニ、

細君ヲ看守車ニ乗ルベキ錢モナク、破レ外被
 ノ着流シテ、犬ノ川端飲ス、食ス、彼ノ清貧ヲ安
 ンズト、飲、郊外ノ秋色錦繡ヲ愛シ

津橋、殘月、曉沉沉、風露凄々、禁暑深

城柳宮槐、漫搖落、悲秋不到貴人心

ト白居易ガ勺ノ詩ヲ吟ジ、風流ノカシテ、徒ニ
 飄然連モ又多カリ、皆光陰ヲ貴マザル之レ積
 習ノ果實ナリ、又鄉學ノ我如キ者ニ於テハ、刑ノ
 語ヲ設ケテ、萬民ヲ糾ス、其語ニ日ク、一不孝ノ

刑ヲ以テ親子ノ間ヲ全タフヒシメ、二不睦ノ
刑ヲ以テ交際上ヲ厚クシ、三不嫻ノ刑ヲ以テ、
一族親戚ノ間ヲシテ風波ヲ起サズラシメ、四
不弟ノ刑ヲ以テ、暴漫人ヲ凌グテ戒シメ、五
不任ノ刑ヲ以テ、事業ニ屈セズ、歎難ニ克テ勉
強耐忍ノ志ヲ起サシメ、六不恤ノ刑ヲ以テ、人
ヲ愛シ惠ミ、又ハ世ニ有益ナル業ヲ起シ、或ハ
同心叶カシテ貧民ヲ救助スル等ノ事ヲ為サ
シメ、七造言ノ刑ヲ以テ、妄誕邪說ヲ以テ、文明

ノ車ヲ引留ム事ナカラシメ、八亂民ノ刑ヲ以
テ、國家ヲ危急ニ臨マシムル暴ヲ戒シメ、國ニ
報ユル義氣ヲ振ハシム、本文蓋シ五十四字恐
ラグハ世ニ補益ナシト為ズ、又曰ク「三十而有
室ト、世上未ダ此教化普ネカラザルヨリ、唯ダ
淫慾ニ魅カレ、彼十体ノ病カラ、叩リニ室ヲ求
ムルヨリ、不時ノ困却ヲ招クアレバ、情人相迫
テ前後モ想ハズ、永世糊口ノ定規モナク、唯ダ
月老ノ擊繩ニ任シ、喜シヒ樂シヒ面白ヒニ其

當座ハ素西借東其日ヲ消却テ遂ニ衣モ飛デ
典舖ニ至リ利子ハ躍テ債主ニ舞ヒ年豊ナレ
ドモ我ハ饑ト呼ビ春暖ナレド細君ハ寒ト啼
キ前門米屋ノ負債ヲ謝セバ後門酒屋ノ責ル
アリ天足地首ノ苦シニ始ノノ思想ト打テ
換リ藝ヲ賣ルニハ其能ナク官途ニ就ニハ又
オナク商賣スルニハ財本ナク車夫ニナルニ
ハ妨ナク貧乏神ノ入寇ハ四顧ヲ略シテ陣ヲ
取り細君ハ顔ハ一段ノ美ヲ損ニ己ガ面ハ瘡

書林卷之四下

クルヲ覺フ心口從テ陋界ニ滑リ憂悶ヤル方
ナキ所カラ匍フ虫ニマテ虐ク當リ蚊ガ耳モ
トニ鳴來ルモカラ限有撃叩キ顔ヲ撃メテ痛
サラ忍へ發モ全家ヲ逐マワシ俱不載天ノ俵
成思フ氣クミテ捫リ潰シ遺憂酒ノ乘除ニ
釜ヲ取レ店賃ノ代ニ火鉢ヲ差出シ遂ニ瓦解
ノ大風來リ嬌花媚柳ノ情人ハ將ニ散落スル
ノ憂ヒニ臨ム勺ノ詩アリ好男好女流離ノ趣
ヲ寫ス

書林卷之四下

懷中未暖各西東 斷腸貧神使吾窮
時節來還兼汝軀 滿胸離思落花風

豈傷マシキ事ナラズヤ 少年夫レ英華果銳ノ
氣ヲ養ヒ事ナルノ後チ、聯勺ノ情ヲ玩味シ玉

錦帳重遮睡到五更猶是夜

洞房深鎖雪深三尺不知寒

雖然此情者此思想之外乎自古英雄而往々有之有俗唱證之

復說女子十年不出 姆教婉婉聽從 執麻泉治絲

繭織紅學女事嗚呼 盡セル哉此語ハヤ文字少

雖也女子終身ノ梯タリ 嗟于更ニ歎ズル

哉開化進步ト漫ニ言フ 婦人ヲヤハオヘコサ

ニオ早ヤフタバハオヤカマシフヲオナラサ
ニタバハ大層賑ヤカタツタネ、何日デモアノ
生醉サンニオ困リノ様子ダネ、生醉ナラ善
ガ、何日モ酖醕九酖醕十デオマケニ無則法ナ

カッホレデ躍リ出サレルカラ迷惑テシマウヨ
ヤオマヘモオ仕舞カ出来タネア今朝オ覺サ
ンガ一番ニ來テ、呉タカラオマヘノハ誰ニオ
結セダオボサンヤ大層恰好ガ善ヨア替リダ
カラ勝手が違テオカシヒ氣持ダヨ人カ替ルト
上手デモ、惡ヒ者サ背向テオ見セヤ何程ニ善
ロウニガ揚リ過タ様ヤナイカア強氣ニ善
ヒ根ガケヲオ買タネナイニサ戴ヒ物サア大
層善人ガアルネ別品サンハ格別モノダ何處ノ

人ダヘナニカ印ダヨカ印トハ野夫ナ人ダ譯ラ
ナイノカシアノ一六休暇サンサウカヘラヤ
一六休暇サンヤナイヤネ今度改テ目曜半土
サンタネソウダツケネドウリデ、十八日ニオ出
ナスツタツケアノ日ニ何處へ連テ往テオ貰ヒ
ア新富座サ浦山シヒネ私ナンガ母ガ堅ヒノ
デ三弦ヤ躍ハ長キクナツテ何ノ役ニモナラ
ナイトツテ、誓古ヲサセテ呉ナカツタ者ダカラ
不意氣ニ育テ何ニモ知ラナヒ上へ醜ト云フ

書林也重切扇下

者ダカラ且印何ガ及バナヒカラ、年中木
 綿ノ衣物ト小倉ノ帯デオマケニ鑊デ着キリサ、
 夫ニ引カヘオマヘ何ガ、常平生絹衣デ纏テ居
 レルカラ、真誠ニ羨マシヒネー、ナリ岡目カラ見
 ルト善様ダケレド、五月蠅者サ、アオ聞ヨ過日
 芝居ヘ往夕時モ斯様サ、ガオツウ気ヲ配シ
 テネ、此オ主ハ強フ芝居ガ好ノート云フカネ、
 大好物テオサイ弁ト去タラ、役者誰ガ善ト
 看々ト岡ヤキヨ、夫カラ真逆菊五郎サ、欵善ト

モ去ナイカラ、何私ハ役者ナニガ嫌デズ、唯ダ
 芝居ハ女ナンゾノ學問ニ善ト欵新聞ニ出テ
 居マスカラ、夫デア、狂言ノ筋ヲ見マスノ、御
 座イ、年、役者ハ年ガ年中オ白イヤ何カデ、オ仕
 舞ヲ致シマス上ヘ立派ナ衣装ヲ着マスノ、デ
 美麗ニ見ヘ、弁ガ、ホシク素顔デ見マス、ト恰デ、顔
 ボウノ様デ、オマケニ顔ノ色ハ青白クテ、艶容
 テ居、テイケマセン、何デモ男ハ且、那ノ様ニ男
 ラシク、不為意外貌テ色モアサ黒ヒ、頬鬚デモ

有^ルホウガ好^キテ御座^イ弁^ト去^タラネオ聞^クヨウカ
 才^オ主^シハ感^カ心^シノオ婦^ハジヤト莞爾^シテネ其^ソ歸^ルリニ
 此^コ根^ネ掛^ガヲ強^ネ而^シ得^ルサバソウカヘ夫^ハヤオマヘモ有^ク
 餘^ホ且^シ印^ニ夏^ノ牡丹^餅ダネ忌^ナコトヲオ去^テナ
 イヨ^ガアルカラ^ラ可愛^ソウニ菊^五郎^サニト
 同^ト較^シニナル者^カ且^シノ顔^ヲ御覽^ナ沙磧^ノ中^ハ
 嘔吐^ヲシテ下^ゲ駄^デ踐^ツケテ乾^固メテ其上^ヘ
 火^口ヲ並^チベタ様^ダ私^モ嫌^テク^テナラナイケ
 レ^レオ母^ガ米^櫃ダカラ耐^忍シロト去^テシ私^モ

西^カホシヒ東^ガ買^タ瓜^ハ領^命々々ト去
 テ買^テ呉^ルカラ針^指ヤ内^職シテ勉^強ヨリ開^ク
 化^シテ居^ト想^テ且^ダ那^ニ致^シテ置^クノオマヘ不^開
 化^ナ年^珠五^足ニ不^飾テ居^ズニ美^麗ニシテ
 且^ダ那^デモオコシライナカ^ル所^ハ同^シ路^次下
 等^ノ權^テキ仲^間ト見^エニ^三斗^リノ白^齒
 イ口^ノ艶^ウス黒^クヒツシハ^ノ眉^毛デ^リキ
 斗^リ顔^中ノ七^難ヲカ^クス^ト士^フヤ^ッ小^高
 キ墨^ソキ^ノ六^キモ^ノニ南^京茶^ノ天^鶴ノ鼻^緒
 ヲ^スゲ^イケ^ソウ^オナ^ラサ^ンシ^テ他^ノ雖^シ此^ノ方^ハ
 ヲ^ウシ^ク來^リウ^オナ^ラサ^ンシ^テ他^ノ雖^シ此^ノ方^ハ
 テ^ラ聞^ヘズオ^ナラ^サン^ツン^ボウ^ノヲ^オガ^ラサ

ン何處へ往タノ「ト」コへ往タンギネワナオメ
ヘト去者ハ、バカラシヒ者ダ、ソウシナセヘ隨
分附合ヲ知ラネヘノガ善ナアレ程待テ居テ
吳ナ同道ニ不動様へ往カラト去ノニソレデ
モオマヘノオ飯ガ埒カ明ナイ者ヲ「ア」大喰タ
カラネ左様サ至極オマヘ様ノガ御尤ノ筋サ、今
オメヘノ所へ寄タラオメヘ所ノ母ガ去ニヤ
タツタ今行マシタ今シ方迄オマヘノ來ノヲ待
テ居タワドウモアノ子ハ我儘テ固ルノ何ノ

角ト嬉シカラセル奴サホニオメヘノ母ハ世事
者ダノウ真誠ニ世事ガ善ヨ、オイラノ所ノ母
トキチヤ一小言斗リイツテ五月蠅クツテナル者
「ア」ネ「ア」オヘコサン堪忍シテオ吳ナハイヨ、
忌々シヒマギレニ應接モ致シマセンデ「ア」ホ、
何カ「ア」フ者デスカ、今日大層御ゲンキデスネー
「ア」私「ア」濱死シタ「ア」オ「ア」者デスカ、氣カ
往北走南シテ何ダカ人ニモ當ル様デ氣ノ毒
デナリマセンヨ、今度又事ニ依ト元ノ水アミ水

書林地庫切編下

十

漢書卷之九十一
卷之九十一

茶屋商賣ヤオマヘ如何シタノハニ地震テ
米櫃ヲ打碎テ仕舞タノ強ヒ目ニ合タナセ
其節ニ要石ノ歌ヲ讀ナカツタノエ馬鹿ヲ去ナ
カシナ文明開化ノ世界ニ歌位ノ事テ地震カ
止ル者カネ且那ノ去ニヤ近ヒ内ニ地震除ヲ製
ヘルトア矢張り黄金ト傳信機 西洋ニテハ黄
捧ル法アリ引テヲ以テコシラヘルノダロノ
三女子ノ集會談スラ斯ノ如ク一時ノ榮花ニ
拘ミ虚利ニ走り身ヲ賣テ妾トナリ敢テ耻ト

新
日
記

セズ遇^多紡^多縫^多ニ從事スル者アレバ因循姑息ノ
不開化ト罵リ又其女ヲ賣ノ親モ敢テ其醜状
ヲ意トセズ唯利之ヲ攫ントス川柳ニ曰クコ
ロベトハ狼ヨリモ強ヒ親ト季世トハ去ヒ乍
ラ酸鼻ノ至リナラズヤ世ノ母トナル者女子
トナルモノ慎シマガル可シ乎古詩アリ半人
半馬ノ女子ヲシテ其膽ヲ寒カラシム

曉夕采桑多苦辛 好華時節不關身
若教解愛繁華事 凍殺黄金屋裏人

書林地庫切編

紅粉翠黛唯綠白皮男甘妹
樂手抱負散身冷魂去弄
之荒原雨濛日曝復史爛
壇燒即為灰焉見昔故埋
亦為土誰思泊交為之惜
名冷於谷響為之求利
空於春夢順我以為恩
愛運已忽作誰敵煩迷
二門山豈不忘得皆是執
笑我之我計無常之常
四種顛倒眼前迷亂人猶
可耻况於天下之志士君
子名宰相乎

題蘭田兵士之車會
向真府内人蘇東坡

困囑

下等車會



女子昔ニチヲカケテ生
ル者ハ別々且ツク
アリ鳴呼哀ナルチ
具字ノ人ニカニ
上等車會
明日、
月給、
夕々々々免官



三身のみ

多修びび

ま〜〜〜

なま〜〜

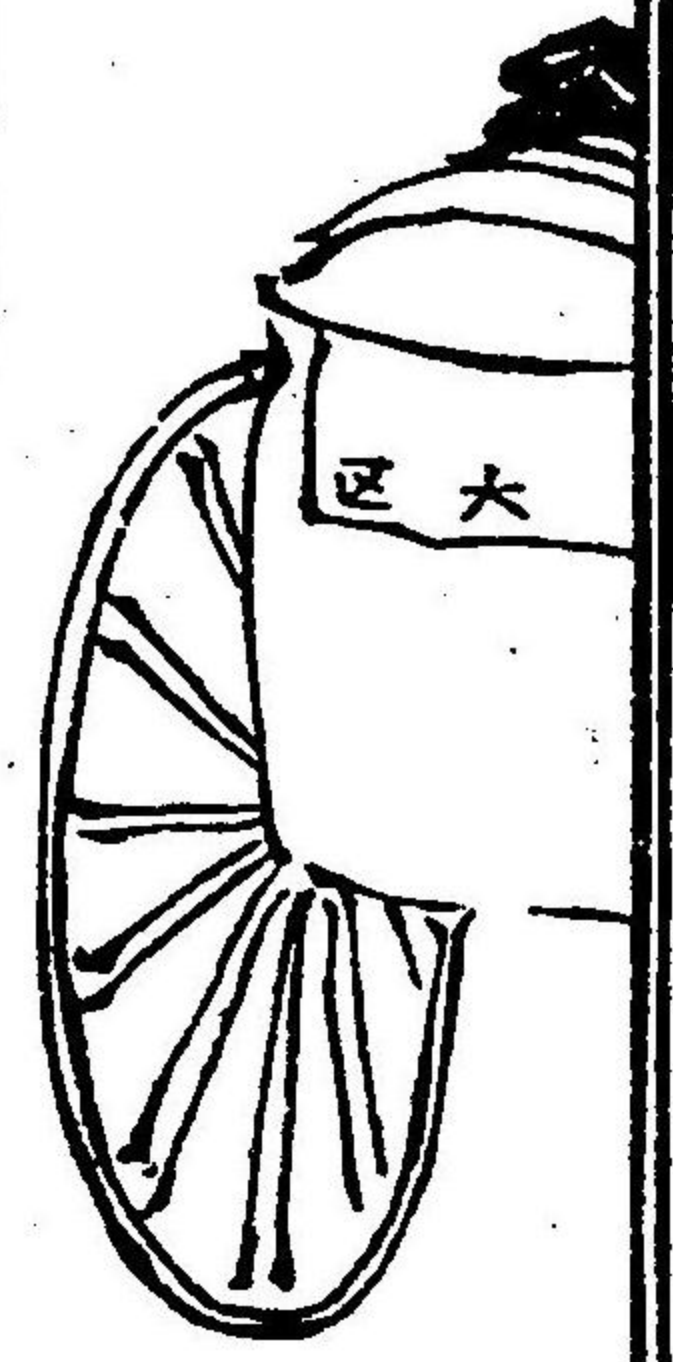
なま〜〜

大臣

道々



中等車會



扇

君、戌、交河、春復、冬、寒衣到日、看新封、
莫、嫌、襟、上、斑、々、色、是、妾、燈、前、滴、淚、縫、

話說今日行一難事、明日行一難事、久則自然堅
固也、白眼ニシテ世上ヲ視レバ、馬車デ飛ブ大
臣殿アレバ、御免サレノ車夫アリ、高閣ニ筆ヲ提
ル新聞記者先生アレバ、此ハ今度世ニ珍ラン
キ次第ヲ御覽ジロト、市中ヲ周ル賣子アリ、廟
堂ヲ坐シテ、天下ヲ是非スルモ、官吏ナレバ、門
卒モ又官吏ナリ、齊シク是人間ニシテ、何ゾ必

ズシモ、上等ハ八臟ニシテ、下等ハ三臟ナルニ
アラズ、唯難事ニ克ノ如何ンノミ、然レモ大臣
殿モ、御免サレモ、記者モ、賣子モ、政官モ、門卒モ、金
チヤン味ヒモ、法主モ、何モ今日生活スルハ、皆難
事ニ克シ響影ナリ、然リ而シテ、各目ノ着所ヲ
異ニシテ、難事ニ抗フヲ以テ、月ト電トノ差異
ヲ生ジ、車夫殿、賣子先生ト、變生シ、遂ニ愚辞ヲ
唱へ出ヅ
時節變換也哉、不可不断望兮、曳車人兮、昇人

知ラシヒ哉其語ノ陋ナル豈時ヨ時節ニアラ
ンヤ其志ガシラ至ラザルノミ朱伯賢ガ曰ク
志トハ心ノ主氣ノ師萬事カ樞機ナリ志ニア
フガレバ自ラ立ス氣自ラ行フレズ事自ラ成
ズ是志ハ又心ヲ主トシテ萬事ヲ造就スルノ
柄ナリ故ニ君子ハ志ヲ立ルヨリ先ナルハナ
ク志一ナルトキハ心ニナラズ志定マルハ
則氣以テ從ヒ志堅キハ則チ事成ト九車
夫モ金チヤン味モ大臣殿ヲ羨ヤマザルハ
ハ

然レモ其車夫既ニ及バザルト自ラ為スハ則
チ志ノ一ナラザルニシテ智識ヲ磨クノ難事
ヲ行ナフ一能ハザル也昔シ齊ニ晏平仲ナル
者アリ一日出其御者ノ妻竊ニ窺フ其夫馬車
ヲ御シ意氣揚々トシ往ク歸ルニ及ンデ其妻
去ラン事ヲ請ヒ御者ニ謂ヒケラク主人晏子
ハ身齊國ノ宰相大臣タリ名ハ天下ニ擅マ
也其志ガシラ見ルニ人ニ謙遜リ未ダ足ラガ
ルカ如シ子ハ人ノ奴隸トナリテ自ラ足レリ

トスルが如シ、是ヲ以テ去ンテ請フナリト
 御者大ニ慚テ悟リ、遂ニ引籠リテ出ズ、晏子之
 ヲ怪シ之其故ヲ問フニ曰ク、去ト實ヲ以テ告
 グ、晏子即チ用テ大夫ト為ト夫レ御者世ニ用
 平ラル、ノ才量アリト雖、遠大ナル難事ニ
 克テ能ワザルヲ以テ、人ノ奴隸タリ而シテ妻
 ノ一言ニ由テ始テ悟リ、天賦ノ性稍ク現レ難
 事、克ノ心既ニ定ル、是ヲ以テ太夫ノ任ニ合
 フヲ得タル也、立年ノ後スラ、猶斯ノ如ク、况
 三十一

ヤ少年、遠大高尚ノ志ヲ建、難事ニ克バ、遂ニ英
 名ヲ天下ニ擅マ、ニシ、其寫真像ヲ玩弄サル
 ルノ榮ヲ得ベシ、又其時ヲ得ザルモ、其職ヲ好
 マザルモ正是

聖無死地、賢無敗局、送禍於渺、迎祥於
 獨、彼昏是違、伏機自觸

復道説、聖人之道、入乎耳、存乎心、蘊之為德行、行
 之為事業、彼以文辭而已者、陋矣、ト是實ニ聖人
 ノ心ヲ寫シ出シタル者ニシテ、世人動モスレ

書林の塵襟
バ聖人ノ道ハ人倫ノミト偏見シ善惡ヲ言ハ
外ハ之ヲ糊ニ上ゲ再ビ下サズ然ルカラニ聖
人ノ心ヲ得ザル者ハ末節ニ涉リ彼ノ文辭ヲ
以テ誇リ祖上ヨリ遺下スルノ事業モ之ヲ俗
ト云市塵ト掃ヒ身ニ德行ナク行ナヒ聖意ニ
背キ遂ニ洋學者流ノ笑ワル處ト為ル豈聖人
ノ罪人ト云ザルヲ得ンヤ夫レ人ノ生ル、無
智ニシテ知ル事ナシ聖人之ニ教フルニ先人
倫ヲ以テ心ニ確ト存ゼシノ之ヲ以テ德行ト

云テ世上ノ幸福ヲ圖ラハシノ次デ之ヲ行ナ
フニ基楚タル事業乃チ世ニ立経紀ヲ教フル
者ニシテ商人モ學者モ職人モ官吏モ千業萬
職、豈此外ニ出ンヤ、特リ儒者其外ヲ出デ其語
ヲ誤リ今日梁ノ元帝カ語ヲ為シ難シ歎
人之道滅于茲矣、讀書數萬卷、猶今日ト俗ニ説
フ臭イ者身シラズト嗟于孔子孔子孔子以テ
後無孔子
祭駘説柳玘曰王相國涯方居相位、掌利權、竇氏

女歸請曰玉工貨一釵奇巧須七十萬錢王曰七
 十萬錢我一月俸金耳豈於女惜但一釵七十萬
 錢此妖物也必與禍相隨女子不復敢言善哉王
 涯ノ言ヤ能ク唐ニ宰相タルノ語ヲ為ス
 我女スラスノ如シ若シ王涯ヲシテ權的アラ
 シノバ洋銀ノ釵モ猶需ノニ應ズマジ是吝嗇
 聚歛ナルニ非ズ天下ニ示シ以テ驕奢ヲ防ノ
 意ナリ凡ソ儉約ナル者ハ道ニ從ヒ易シ驕氣
 ナキヲ以テ也吝嗇ナル者ハ道ヲ忌ヒ貪慾ナ

ルヲ以テナリ儉約ナル人ハ交リ厚シ謙遜ヲ
 以テ也吝嗇ナル者ハ交リ疎シ吝嗇ムヲ以テ也
 儉約ナル人ハ能ク人ヲ惠ム仁愛アレバナリ
 驕ヲ好ンデ人ニ吝キ者ハ必ズ貪佞ノ白痴也
 柳柳州ノ賀進士ガ出火ヲ賀シテ愚弄スルモ
 蓋シ人ニ惠ヲ嫌フモ以テ也世ニ朋友ノ貧ヲ
 助ケツシテ貧乏神ノ氏子ナリケル權的ニ驕
 ル者アリ權的ハ何ゾヤ昨日ノ護兒カ將猫カ
 ニヤンノ能ナクシテ白巖ノ番頭家令ヲ嫌ヒ馬

車ニ駕シ、高閣ニ眠ル首纏ノ珊瑚珠ハ野夫ヲ
 以テ卻ケ琥珀ノ棗形ハ廉ヲ以テ貪ラズ、紅玉
 ガ善ヒ、金剛石ガ望ヒ雲トナリ雨トナツテ、妖
 ヲ埋怨、美醜ヲ以テ等ヲ異ニスルト雖モ、大約
 十圓二十圓ノ月給ヲ前借シテ之ヲ能優或ハ
 落語家ニ投ジ、以テ身ヲ滿顔埋毛ニ許スノ憂
 消ス宜ナル哉、乃公モ又鼻下ノ延スノ故ア
 ル事ヲ蘭田居士寒素ニ有テ未タ花笑柳眠、彼
 ノ金扣、含羞解、銀燈帶、咲吹ノ情ヲ知ラズ、若シ

夫真ニ其趣ヲ解シノバ、則チ筆ヲ抄ジテ魂ヲ
 有長天外ニ飛スナラン、古聯ノ勺アリ其真趣
 ヲ寫シ出ス

待月夜眠遲、玉指暗中羞解佩

迴風花影動、霧幃深處謾尋春

居士益頑的、崔道融カ相如、自是薄情人ヲ以テ、
 目スモ却テ王涯ヲシテ地下ニ哭殺セシムル
 ヲ愁シム、世上ノ王涯ハ予ヲ笑殺スルナラン、
 任他我ハセ、テ辰己ニ遊ン哉否

近頃無錢無貸人 妓院軒下觀寫真

幾回欲決質身 又恐明朝金策辛

更復說自道之不明也 邪誕妖妄之說 競起塗生
民之耳目 溺天下於汚濁 雖高才明智 膠於見聞
醉生夢死 不自覺也 嗚呼 又モ心ヲ傷ムル哉 然
ナサシムルノ事ヲ抑モ 誰罪ゾヤ 天哉 時哉 將
儒者哉 吾之ヲ宋ノ六一居士ニ聞ク 夫醫者之
於疾也 必推其病之所自來 而治其受病之處 病
之中人 乘乎氣虛而入焉 則善醫者 不攻其疾 而

務養其氣 氣實則病去 此自然之效也 故天下之
患者 亦必推其患之所自來 而治其受患之處 夫
天ハ冥々茫茫 得罪ヲ課ス可ラス 時ハ人ノ通
變ニアリ 又罪ヲ命ス可ラス 吾以テ之ヲ儒者
ニ歸シ 道ノ病ヲ誤察シ 以テ其患ヲ治ノント
スルノ野巫醫ト為ス 夫儒者口ニ仁義ヲ説テ
仁ヲ知ラス 義ヲ謂テ實行ナク 平時已ヲ欺キ
曾テ獨リヲ慎マズ 徒ニ談博ニ誇リ 放縱無頼
道德ヲ豆ト俱ニ包テ 御厄拂ニ遣リ 偏見奇説

ヲ以テ愚俗ヲ驚カシ、門戸ヲ張大ニシ業ヲ世
ニ街フ、他ノ感レナルヲ羨ミ妬レテ之ヲ誹謗
シ吾學力ノ淺深ヲ計リ彼ヨリ淺キ片ハ深カ
ラシムル下ヲ思ハズ、是今日儒者ノ口糊立ザ
ル患ヲ受ルノ本也、孝徳天皇ノ教ニ曰ク、凡欲
致治者若君若臣當正己而後正人、如不自正何
能正人ト、豈唯官吏ノミナラレヤ、苟シクモ人
ノ師範タルモノ、謂ベクシテ行ナハザル時ハ、
争テ人は是ニ服サレ、儒者夫レ道ヲ恢弘シ以テ、

其活計ヲ温ナラシメント欲セバ、其患ヒヲ受
ル所以ヲ正シ、異端ニ勝ノ高説ヲ發明スベシ、
然バ則チ其患ヒ自ラ息ン而已ト、斯我々が口
ヲ酢クシ、咽喉ヲ乾カシ、告天子ヲ學ブト雖モ、
儒者先生既ニ大學ヲ將テ、初客入閨之門也ト
誤讀シ、自朋遠方來、モ後朝ノ一宿酒ニ留主ヲ
ツカヒ、讀書ノ朗聲ハ、三下リノ唱歌ト變ル中
島宗隱俗歌ヲ作り道是

經書孰讀兮通吉原兮日在孔子之中兮

己ナシク我己ニ十分ノ一ヲ引テ左ニ數列セ
リ本編ノ語取ベキ者猶多シ今悉ク擧ルニ違
マアラズ陸象山ノ語ヲ以テ趣意ハ尽セリ洋
學廣シト雖モ昨今ノ小學書多シト雖モ何レ
カ著ノ揚ゲ下シヨリ寢不テ起キ顔ヲ洗ヒ衣
類ヲ著ル言行舉止百年ノ春秋ヲ保護スルノ
書アラシヤ然レモ其業ヲ賣ル儒者ニシテ其
行ヒ斯ノ如シ諸君復何ヲカ言ン書籍ト為テ
己ニ終リヲ遂ズンハ紙蟲ニ食レテ淺草紙ニ

還魂サレニノミ誰カ能ク身ヲ屈シ洋書ノ表
紙ノ張糊トナリ石檢臭キ香ヲ嗅ンヤ嗟乎夫
レ諸君復何ヲカ言ン本國漢土ヲ去ル事萬餘
里知己ニ朝夕會ト雖モ同ジク是他鄉ニ客タ
リ何レノ日カ敗楮舖ニ至フニモ計リ難シ生
テハ別世ノ本トナリ破レテハ板孔ヲ糊レシ
長ク諸君ト生死辞ス幸ニ故人ニ謝セヨ勉メ
テ聖道ヲ復セヨ又努力カ自愛シテ婦人手掛紙
トナルヲ勿レ時ニ明年ノ土用于迄アラバ復

面謁セント、懷中ヨリ、一牘ヲ投ジ、飛テ本函ニ
退テ隠ル、牘ニ文ト二十八字ノ詩アリ

書肆辭

小學

小學既棄、晒於露店、行吟柳原、表紙殘虧、全本破
壞、書肆見而問之、曰、子非素流行書與、何故至於
期小學、曰、舉世皆新、我獨舊、新本皆淺、我獨深、是
以見棄書肆、曰、聖人不凝滯於物、而能與世推移、
世上皆新、何不由其新而改其趣、新本皆淺、何不
倣其体、而似其文、恁的言三語、四自令棄為小學、

曰、吾聞之、推兵播種、時甫鴉來、啄三回而一回、必
逐之、恁能以身之職、分做鴉之啄、種者乎、寧赴文
庫、葬紙蟲之腹中、又安能以漢字之堅、而譯蚊脚
之字、乎書肆莞爾而笑、不問價而去、歌曰、四卷六
錢、兮、可以買鋪飾、四卷十錢、兮、可以賣自吾、遂去
不復問價

春風春雨能開花、
春雨春風能散花

昨日知音今日仇、
世上萬事似春花

一奇大書林之庫、初帙卷下終

呂之部

波臣 ニロウ

波之部

浪 通俗扁ニ
ハナハシ

急來 ハラ
タチ

首身 青箱記
ハクシキウ

剥落 ハゲツ
ネタ

破綻 化ノ皮ガ
ズレタ

匹刀撲

六 バダク
スル

支吾開去 話シラ云マキ
ミ言ヌケスル

上直 番ニ
デル

話兒 ハナシ

一吹一唱 ハヤシ
タタ

咸多

計較 ハナハシク
ヲキヲスル

東西乱攪四散走奔 バラバラ
ニダダス

東央西告 ハウバウタノミ
マワク

東那西湊 ハナウデ
サイオタスル

初頭 ハシメ

侮著鼻 ハナヲ
ツマ

拵札 小説精言
ハタラク

撲地倒了 ハネタ
ラル

罷了 ハテンヤ
クダシ

攀話 ハナシ
スル

怕羞 ハッガシ
ガル

歉 ダハラ
ダナ

手忙脚乱 バタバタ
スル

一肚子氣 ハラウチノ
カネ

雜部

春艷 ハルガ
シキ

春戲臺 清嘉録
ハルシバ

不倒翁 ハリモノ
ダマ

客舍 ゴキヤ
ゴキヤ

急鼓 呉志
ハヤキ

胡梯子ハコ 針鉸ハサミ 首賭ホウゲ 柱蠟カキ 柯茶カキ 柴硬人カキ

飛鳥使トビノシ 弱顏ヤカホ 刺々活々地カキ 要鬧坊市町カキ

班輩的ハハク 弔客ハク 不唧溜ハカモ 成精的ハケモ 忒殺ハカダ

快些ハヤ 樸地ハタ 計ハカリ

アトハニ快工移ル

一 校文章軌範訓本 假名附 全六册

一 漢語日用早便利大全 刻成 全三册

一 日本政記字引 横本 全一册

一 洋算相場早割 和算 全一册

一 改洋算早學 初二合本再版 全四册

